

# えん

寿東部地区  
社会福祉協議会  
広報誌

創刊号  
平成23年4月

## 縁につながる寿東部

寿東部地区社会福祉協議会会長 中村 宣吉

横浜の一番の下町、生粋のハマっ子が集まる寿東部地区は戦前から御近所の付き合いが盛んで、地域の人々は皆縁続きと言いたいほど「地域の縁」に結ばれています。

日頃何の気なしに行っている各町内会の行事、たとえば2月の「もちつき大会」で寝たきりの人、一人暮らしの人につきたての餅を食べてもらったり、4月の「お花見大会」では老若男女を含めて子供、老人席を設けてもてなし、桜花を愛でてもらったり、8月の盆踊りでは子供から大人まで浴衣姿で夏を楽しんでもらい、又9月には「敬老会」を催し食事、カラオケを楽しんでもらっています。吉田新田鎮守の「お三の宮」の祭りで町中がお祭り気分になり、家族縁者も地方からつどい地元で旧交を温める。10月には健民祭で各町内会が競いながら和を、縁を深め親しみ合い、11月は大鷲神社の「酉の市」の賑わい

に小学校の生徒が校外学習に訪れたりしています。

年間とおしての「防災訓練」はどここの町内でも独自の方法で行い、お年寄りや、一人暮らしの人をどのような方法で援助救済するかに取り組んでいます。

このような事は今まで「何の気なしに」「ごく普通のこと」として取り組んできましたので、これが「社会福祉」という立派な言葉で表現されると何となく面はゆい気がします。

私たちは「寿東部地区」の「縁」(えにし、つき合い、生活のつながり)をさらに深めるために、今回各町内会が独自に行ってきた行事の一端を発表してもらいました。

「福祉」という言葉の深い意味を心にきざんで、地域の皆様のご協力頂き、寿東部連合の「福祉」活動として発展させていきたいと思っています。

## 縁の日

永楽町内会 山田 宏子

今年の夏は気象庁の観測史上、最高に暑かったとの事。その猛暑の中、8月26日(日)に、毎年恒例になっている町内会縁日が行われました。会場は町内会館前の駐車場。ご善意でお借りすることが出来て「感謝」の一言です。

陽がそろそろ西へ傾きかけた2時、縁日の開始です。余程楽しみにしていたのでしょうか、開始前に今か今かと待っている子供達もいました。縁日の開始と共に、各コーナーには列が出来、お手伝いの方達は忙し。冷たく冷やされた飲み物。こんがり焼けたフランクフルト。鉄板の上でジュージューと焼かれる焼きそば。会場全体に、おいしい空気が漂います。昨年からは老人会(永寿会)も参加して下さり、味がよく染みこんだ玉こんにやくを出店。この暑さには、やっぱりかき氷!暑さの中にも、ここだけは涼を感じる事が出来ます。その他に、輪投げ・くじ引きのゲームコーナーもあり、お菓子や小物の商品が沢山用意されていました。どのコーナーも活気に溢れて、楽しむ子供達の声が響き渡っていました。縁日も後半になり、「お楽しみ抽選会」の時間です。各自で持っている縁日カードの番号が読み上げられるか、ワクワクドキドキ。1等にはミニソファが用意され、当たった方は大喜びでした。まだまだ縁日気分に戻っていたのですが、4時で終了となりました。きっと今年

の縁日も、参加者の心の中に、暑く、楽しい思い出として残される事でしょう。

縁日は町内会行事の一つですが、こんなに楽しく地域の人達がふれあえる“居場所”が有るという事を、多くの方達に知ってほしいと思います。昨今、隣近所の人間関係が薄れてきている中で、町内会縁日を通して、人と人との縁が結ばれたように感じました。

「縁日」は、人と人との「ご縁の日」でもあるのです。



### 育てよう下町の和

万世町内会 伊藤 隆

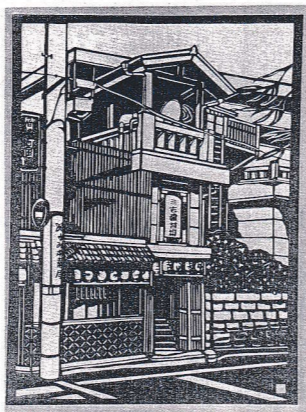
十年以上前の話ではありますが、平成十年は万世町創立五十周年にあたる大きな節目の年「育てよう下町の和」をスローガンに記念誌・会員名簿を発刊することになり、市長をはじめ南区長・連合町内会長・消防署長・小中学校長・PTA会長や万世町歴代会長ご本人・ご家族からお祝いの言葉を寄稿頂き掲載し、又「万世五十」の人文字を、百人を越す市民の協力で見事に描き表紙にしました。そして各方面からの広告掲載やご寄付により、式典も中華街のホテルで多数のご来賓の出席を頂き盛大に執り行うことが出来ました。

その折に拝聴したお話から、戦前万世町は千歳町と三吉町の一部で中区であり、戦中の昭和十八年南区が新設された時に千より万と言う意味あいから万世町と名称が付けられた。横浜港を中心に縦横に延びた運河沿いの万世町は、切り出された輸入材が丸太のまま河に浮かび製材する作業所と材木商が立ち並んでいたそう。又、石炭・コークスもダルマ舟で運ばれ石炭山が幾つもあり、その石炭山と丸太筏の上が子供達の遊び場だったとか。近くには東橋・三吉橋・横浜橋各商店街があり、映画館や銭湯も多く、万世町にも銭湯の二階が芝居小屋の三吉館があって現在も演芸場として親しまれている。町内会館も河に半分はみ出した違法なものから、昭和五十三年製材所の火災から、

跡地を市が雨水処理場にして、その敷地内に現在の町内会館が当時の町会役員が奔走して建てられた等、歴代八人の元町内会長さんご家族から貴重な万世町の歴史を聞くことが出来た。

現在横浜の運河のほとんが埋め戻され公園や地下鉄・高速道路に利用されているが、万世町沿いの運河はそのまま残っていてその上に高架高速道路が走っている。町並みも材木商や石炭置場などすでになくなり、高層マンションが建ち並ぶ人口密度の高い町に変貌して十年一昔の話。

結びに寿東部連合町内会長としてご寄稿下さった方の言葉「下町は義理と人情とやせ我慢」。町内役員のボランティア精神を言い当てている。



### 敬老の日の宴

真金町第一町内会 清水 都

「やあーちょっと早すぎたかい?」「もう入ってもいいかしら?」

こんな挨拶とともに真金町の連合町内会館に、今日的主役達が集まりだして来ました。未成年はおことわり、70才以上です。

そう平成22年度真金町第一町内会の、敬老の日を祝う会が今始まるのです。

毎年9月の第1日曜日が当てられます。今年は9月5日です。正午近くにはかなり人が集まり、スーパーカーを曳いてアイさん、心配していたサチさんも元気です。

どうしたのでしょうか、元気で来る筈の100才長老がまだです。「何処に座ろうか?」「こっちにおいでよ」「こっちこっち」いせい良く声を掛け合うのも下町です。

席の前には、おでん・勝烈弁当・超豪華料理が飲物と共に並びます。

婦人部さんが用意してくれたお祝いの膳です。申し込んだ50有余人の出席者が揃いました。町内会長・ニコニコ会々長・来賓とそれぞれの祝辞・お礼の言葉が続きます。

その時、今日に備え床屋さんに頼んでいたと、散髪姿も清々しい、長老100才亀藏さんが間に合いました。カラオケマイクの登場です。

長老がマイクを頂き、会長・来賓の方々に深々と一礼、次に仲間の皆に一礼。

♪白樺〜 青空〜南風〜♪こぶし咲く〜  
♪あの〜あの北国の春♪  
千 昌夫さんに勝るとも劣りません。NHKのど自慢優勝者! さすがです。  
マイクはその後、次々と出席者に渡り、下に置かれる間はありません。  
さて会館の外の陣も始まっています。  
今日出席しなかった、70才以上のお宅に記念品の配布です。友愛・保健・民生児童委員が走ります。  
お祝いの宴は続きます。  
♪ついて来いととは〜 言わぬのに〜 黙って〜  
♪後から ♪ついてくる〜♪  
100才バージョンの「夫婦春秋」で締めくくるまで延々と……



### コンニチワ! 高根町西町内会です

高根町西町内会 木村 雅一

高根町西町内会は、市営地下鉄阪東橋駅際の医大通り商店街をはさんだ高根町三丁目と四丁目で構成されており、世帯数も少なく、寿東部連合町内会の中でも小さいががあったかい町内会です。祭礼好き、スポーツ好きの多い町内会です。健民祭においては、過去5年間で3回優勝するという成績を残しています。

町内会行事も活発であり、先代が築いた町内会館を有効利用して、四季を通じバーベキュー大会、ミニ縁日、防災モチツキ、フラダンス、カラオケ等を行っており、婦人部、子供会、高根クラブ、青年部の役員の方々の積極的な運営で多数の参加者

### 防災フェスティバル

真金町二丁目町内会 木村ミドリ

私達の町内会では、至る5月29日(土)朝から防災フェスティバルを開催することを企画いたしました。色々意見がありました。

協議の結果、防災フェスティバルだけでは住民が集まらないという意見があり、フリーマーケットを出したらどうだと言う事に成りました。(決定)

賛成と言うことで、町内の防災フェスティバルとフリーマーケットを運営することになり、防災に関係するグッズを全品披露する事と、普段防災訓練ができない為、三角巾、担架、発電機(2台)その他を、参加者と合同で実演する事になりました。



### ひとつになれば

浦舟町西部町内会 高木 正隆

「『福祉』って何?」「『地区社協』って何?」  
こういう疑問は…あると思います。

昭和26年、GHQの指導の下、混乱した地域社会を立て直そうと、全国一斉に作られた任意団体が、「社会福祉協議会」、略して「社協」です。

およそ7割の市町村社協が、介護保険事業のホームヘルプ

### 新町内会会長職

白妙町第一部町内会 田中 敏一

早速の困った事。  
新民生委員選出の件、どなたを推薦したら。  
次々と会長職のなさねばらぬ仕事が出て来る。  
早速の人事、祭礼の準備・会議・敬老の日の為の段取り。

にめぐまれ、町内会の皆様にも大変喜ばれています。

一方、内面的な活動については、昨年第2期南区地域福祉保健計画の取組みとして、「災害時要援護者支援」の取組みを、寿東部地区のモデル町内会として参画しました。地域ぐるみで災害から「在宅要援護者を守る」基本的な考え方を基に、区役所担当課長の指導で、個人情報等の問題もあり、苦労しましたが、民生委員が中心となり、第一段階(手あげ方式)は完了しています。現在は、第二段階待ちになっています。

以上が、高根町西町内会の概要と近況です。

当日、防災フェスティバルで上記の様な訓練を行うにあたり、テント(2ハリ)、防災グッズ、展示用担架、三角巾、発電機などを、実演いたしました。終了後、カンパン、水を配布いたしました。

※防災フェスティバルは、当町内会は今回初めてなので町内会だけで開催し、連合町内会及び行政には声をかけませんでした。防災に関する訓練を行った結果、忘れかけていた三角巾(本結び)がなかなか出来ず、ずいぶん時間をかけて練習した結果、出来て良かったという言葉でした。

やはり、何回か練習しないと身につかない。いざとなったら、何も出来ずでは困ります。担架もサオタケ・毛布で作成し、最後には毛布の早いタタミ方まで実演いたしました。お年寄りには簡単に出来、これは覚えていて良いと思います。1・2・3くらいでタタメますよ!

町も高齢化しているので、隣り近所の助け合い・声かけが大事だとつくづく思いました。これからも又、開催したいと思います。

サービスを実施しており、基本は、「地域福祉の推進」ということになります。

主役は、地域に住む皆様です。地域の福祉問題を、お一人お一人の問題として話し合う。出来ない問題は、出来る方に支えて頂く。「適材適所」でひとつになれば道は拓けると、私は願っております。

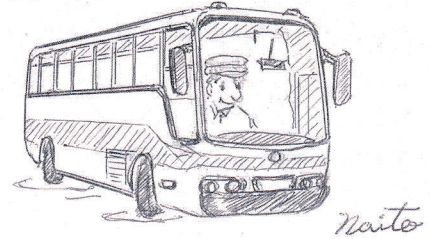
あまりにも老人の多さに自身も含めて、どんな事がこれから出来るやら。  
周りの方々のお知恵と労力をお借りして行くしかと考えて居る日々です。

## 22年度高根町東町内会バス旅行記

高根町東町内会 内藤 稔

5月30日 日曜の朝バスが薄曇りの公園通りに停車していた。恒例の町内バス旅行の出発です。例年一年で一番良い季節に一人でも多くの参加者を、との世話人の思いから、今年では行程が楽な都内庭園巡りでのんびりと高齢者も楽しめる内容とした為、参加者も多く、笑顔で出発しました。休日の朝、首都高速はすいており、最初の目的地、東京スカイツリーの建設現場に予定より早く到着。人が集まらないうちに見上げようと真下にバスを止める事が出来ました。しかし本当は少し離れた場所の方がポイントなのですが皆んな真上を見上げ苦しい姿勢で写真を撮っていました。私としては完成してからゆっくりと見上げたいと思いました。ここから程遠くない浅草に移動、未だ人が少ない仲見世から浅草寺迄散策しました。本堂の瓦がチタンに変わった事に興味を覚えました。地震を考えると、コストが3倍高になっても、価値はありこれから他の寺院の改修に、多大な影響を与えるであろうと考えます。次に皇居に向かったバスは、東御苑で止まる。桔梗門から入園、回遊式庭園と池に注ぐ滝を眺めれば、静けさで木々の向こうに見えるビルが無ければ遠き江戸270年の歴史が甦り別世界です。更に奥の本丸跡の白い石垣を仰ぎ見れば、幻の江戸城天守閣が浮かび上がって来る気がします。

赤坂に向い早めの昼食をとり、午後は文京区の六義園に向う。園内に入れば新緑が滴り落ち元禄の円熟文化に触れ、何度訪れても新たな発見が有ります。さて次は、同区内の旧古河庭園を訪れます。ここの売りはその名の通り、バラの咲き誇る庭園です。こんなに種類が豊富だったかと驚きです。5月のバラが咲き誇り目を奪われます。下の段は日本庭園ですが、私はむしろ威容を誇る館に興味を引かれました。明るい空に黒い石の壁が何か異様なミステリアスな江戸川乱歩の名前が浮かんで来る様な気分になるのは、私だけでしょうか。最後に丸の内の国際フォーラムに立ち寄り、帰路につきました。私自身は、初めての所は無かったのですがすべての順路がスムーズに移行し、又巡った所も別の角度から見る事が出来、有意義な一日でした。バスを降り高齢者の笑顔を見送りながら、さて来年はどこにと考えながら帰路につきました。 完



## ミニ縁日に参加して

白妙町二部町内会 谷口 有人

今年から町内会の役員として町内のさまざまな活動に参加して、防犯灯の管理は町内会が受け持っていることや、連合町内会で持ち回りで公園清掃を行ったり、災害時の備蓄等、さまざまな活動を行政を補完する形で地道に行っていることを知りました。普段の生活では、こうした町内会の地道な活動が目には触れる事は少ないので気づかなかったのですが、多くの町内の住民の方々が町内会の活動に対して興味を持って参加するようになれば、地域の防犯・防災だけでなく地域の活性化に繋がるのではないかと感じております。そのためには、町内の住民の方々の交流・親睦を深めるのが、一つの大きな課題になっていると考えられます。特に、町内にはマンション等の集合住宅が多く、近所の人の繋がりが希薄になっています。

そこで、町内会では、町内の住民の方々の交流・親睦を深める活動の一環として、さまざまな町内行事を催しています。直近では、焼きそばの香りと提灯の明かりが記憶に新しいミニ縁日が文化部和子供会の共同で開催され、多くの町内の住民の

方々で賑わいました。私は、ラムネの販売を担当し、多くのラムネを縁日参加者に配りましたが、同じ町内に住んでいながら知らない人が多いことに、今更ながら実感しました。ミニ縁日の開催時間は午後17時から19時までの2時間で、あっという間に過ぎてしまいましたが、延べ数百人の人々で賑わいました。特に、子供達のヨーヨー釣りや輪投げに一喜一憂する姿、景品のお菓子をもらって喜ぶ姿が印象的で、はるか昔の縁日での自分の姿と重ね合わせ、親として子供をしっかり見守っていかなければと感じました。

今回は、ミニ縁日として紹介しましたが、町内の住民の方々の交流を深めるために、ミニ縁日のような昔ながらの方法は非常に有効で、他の町内会におけるミニ縁日や本格的な縁日を参考にしつつ、より良い行事にさらに発展させていく必要性を感じました。特に、中高生が参加したくなるような魅力ある行事にし、地域の活性化のために世代を越えた交流が必要であると感じています。

### 「編集後記」

3月11日に発生した東日本大震災は私達がこれまでに経験したことのない大地震、大津波の連続で、この被害たるや想像を絶するものでした。亡くなられた方々には心からお悔やみ申し上げるとともに、現在も苦難に直面している方々に心からご同情申し上げるとともに励ましの言葉をお届けしたいと思います。

地域社会の“つながり”(えん)をテーマにした広報誌を創刊するに当たり、如何にこのことが大切であるか痛感いたしました。各町内会の行事の中に人と人との“つながり”(縁)を大事にして、地域を守っていくことを更に推し進めたいと思います。

創刊第一号に携わっていただいた各委員ならびに記事原稿を投稿していただいた各位に心より御礼申し上げます。

「追記」第2号の発行は9~10月を予定しています。記事原稿を投稿したい人は事務局までご連絡下さい。

社会福祉協議会 寿東部地区事務局 〒232-0021 横浜市南区真金町1-5 TEL.045-261-7998 FAX.045-260-6473 中村